

畑地に住宅が点在し幹線道路が通る地区における騒音調査・二酸化窒素濃度調査・住民意識アンケート・懇談会
住民主体の住環境改善活動の促進を目的とした自治会・町会との共同実測と住民意識に関する研究 その8

主体性 懇談会
アンケート調査 二酸化窒素濃度

正会員○関 創平*1 正会員 飯間正照*2
同 高野利永*3 同 三浦昌生*4

1. はじめに

本研究では西新宿第一町会における騒音、二酸化窒素濃度の実測調査と住民を対象とした第2回アンケート調査の結果を報告する。また、それらの結果を報告し、今後の住環境について住民と話し合うための懇談会を行った。

2. 騒音実測調査

04年11月16日(火)18:00~21:30に、同町会区域内63地点の等価騒音レベル(L_{Aeq})を住民と共同で実測した。実測には住民9名が参加した。同町会における騒音実測結果メッシュマップを図1に示す。全体的に高い値を示しており、特に交差点付近は環境基準の70dBを超えており、自動車の発進時の騒音が原因だと推測される。実測後のアンケートには、「数値として表れることで、どこがうるさいかよくわかった」という意見があり、住民が実測への関心を持ち始めたことがうかがえた。

3. 二酸化窒素濃度実測調査

04年12月1日(水)20:00~2日(木)20:00に、同町会区域内の336地点において二酸化窒素濃度の実測を行った。

計測用カプセルは町会班長を通じて同町会区域内の全380世帯に配布した。その結果、272世帯(参加率72%)の住民が実測に参加した。二酸化窒素濃度実測結果メッシュマップを図2に示す。交差点付近は0.067ppmを示し、騒音実測同様、環境基準を超えていた。それ以外の計測点では、比較的低い値が多かった。カプセルと一緒に同封したアンケートには、「早く結果が知りたい」、「悪い値がでたら対応策はあるのか」といった意見が多く、住環境に対する住民の意識の高さが確認できた。

カプセルは住民と一緒に作成し、住民22名が参加した。実測調査への高い参加率を得ることができたのは住民自らがカプセルの作成に携わったことを住環境新聞に掲載したことがひとつの要因であると考えられる。また、カプセルの設置に際して役員から質問が出されたことや、班長が自主的に回収を促すなど実測調査だけでなく、その準備作業を通じて、住民の住環境に対する意識を向上させることができた。



図1 騒音実測結果メッシュマップ

(04.11/16 18:00-21:30)

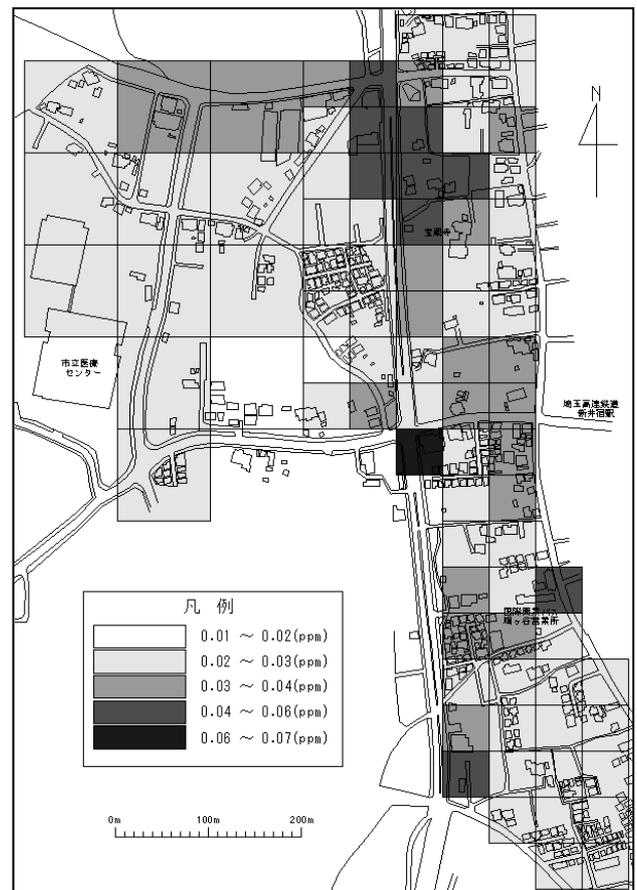


図2 二酸化窒素濃度実測結果メッシュマップ

(04.12/1 20:00-12/2 20:00)

Questionnaire Surveys, Field Surveys on the Noise, Concentration of the Nitrogen Dioxide and Discussions with Residents in the District with Main Roads and Houses Dispersed in Vegetable fields

A Study on the Promoting for Improving Own Living Environment Based on the Collaborative Survey Data and Residents' Conscious with the Residents' Association Part8

SEKI Sohei, IIMA Masateru, TAKANO Toshihisa and MIURA Masao.

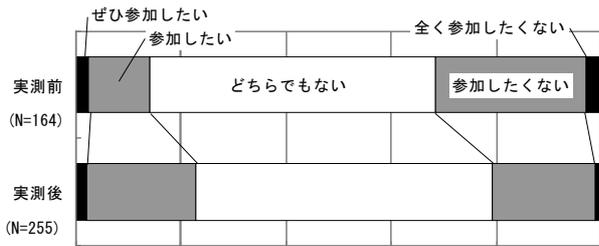


図3 実測調査に対する参加意識の変化

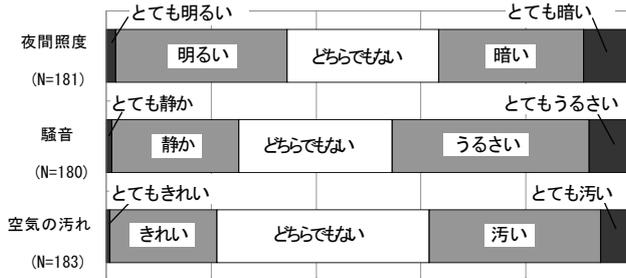


図4 実測調査結果に対する意識

4. 第2回アンケート調査

04年12月中旬に同区域の全380世帯を対象に第2回アンケート調査を行った。回収率は70%(回収数267票)と第1回アンケートを大きく上回った。その要因は、住民に住環境調査が認知され、住民の意識が高まってきた結果だと推測される。実測調査に対する参加意識の変化を図3に示す。実測調査後に参加意識が高くなっていることがわかる。

図4に実測調査結果に対する意識の結果を示す。夜間照度・街灯の明るさについては「とても明るい」「明るい」を合わせた回答が34%、「とても暗い」「暗い」を合わせた回答は37%で、第1回アンケート調査とは異なり、明るいと思う側と暗いと思う側がほぼ同じ値になった。騒音については「とても静か」「静か」を合わせた回答が25%、「とてもうるさい」「うるさい」を合わせた回答が45%と第1回アンケート調査同様、静かだと思える側の回答を、うるさいと思える側の回答が大きく上回った。空気の汚れについては「とてもきれい」「きれい」を合わせた回答が21%、「とても汚い」「汚い」を合わせた回答が39%と第1回アンケート調査同様、空気が汚いと思っている側のほうが多かった。

表1に住環境実測調査や、配布した住環境実測結果報告書についての住民の主な意見を示す。住環境が悪くなってきていることに気づいている住民もあり、交通量の多い国道122号線に関する意見、緑に関する意見が聞かれた。また、できるだけ協力したいという意見や、今回の実測調査を今後どのように役立てていけばよいかという意見も聞かれた。

表1 第2回アンケートにおける主な意見

- 1) 住環境実測結果報告書を見ての意見
 - ・照度は場所によって暗いところがある。騒音は自動車の多いところと、暴走族のたまり場のところが多いと思う。二酸化窒素は緑が多いせい意外に少ない。
 - ・同町内会であっても地域によってずいぶん違いがあるのだと思った。30年前と比較すると利便性は良くなったが、住環境はかなり悪化したように思う。
- 2) 住環境に対する意見
 - ・科学的な調査は初めてと思う。数値を見て環境の実態がわかりよかつたと思う。今後も定期的に調査をすることを希望する。
 - ・実測結果はとても興味深いものだった。住環境に関心を持ち、少しでも良い環境になるよう協力したい。
- 3) 今後に関する意見
 - ・122号線沿いはやはり空気が悪いことが分かった。交差点付近もアイドリングや発進時のふかしなどで環境に影響があるのだということが分かった。こういった調査を今後どういった事に生かしていけばよいのか。

表2 懇談会後のアンケートにおける主な意見・感想

- 1) 調査結果およびその表現方法や利用方法についての意見、感想
 - ・アンケートなどによってこれほどまで詳しい結果がでるとは思わなかった。大変参考になった。
 - ・自分の住まい近辺の調査結果を表を見ながらわかりやすく見ることができてとてもよかったと思う。
 - ・細部に渡る調査結果の報告に感銘を受けた。この結果をもとに行政への働きかけの目当てとなればと考えている。
 - ・目で見る表・グラフなどがありわかりやすかつた。
 - ・予想以上のすばらしい成果が出たと思う。
- 2) 懇談会についての感想
 - ・明解なまとめ方でよく理解できた。
 - ・おかげで住環境に対する関心も大変高くなった。

5. 住民との懇談会

05年1月23日(日)18:30~20:30に同町内会館において懇談会を開催した。住環境新聞で呼びかけを行ったところ9名の住民が参加した。これまでの実測結果やアンケート調査の結果を報告し、それに対する意見を収集した。住民から多くの意見を引き出すために、視覚的にわかりやすい資料を作成した。ひとつの項目について報告が終わるたびに、会場の壁面に資料を張っていき、他の項目と比較できるよう工夫した。そうしたところ会の進行とともに住民から様々な意見や質問が相次いだ。表2に懇談会後に行ったアンケートで得られた意見・感想を示す。「大変参考になった」、「市政への働きかけのきっかけにしたい」など、これから住環境を住民主体でよくしていきたいという姿勢がうかがえた。

6. まとめ

実測調査や懇談会は住環境改善行動の土台作りである。それを土台とした環境に対する住民個々の行動・発言があれば、そのすべてがより良い住環境の実現へと繋がっていく。「やっても無駄だろう」、「仕方がない」という悲観的な一部の住民の考えを払拭することは容易ではなかったが、実測調査に参加することによって、徐々に住民の考えが変化していくことが確認できた。これからは、住民の「問題点に気づき、それを改善しようと思うことから始まる」という意見にとどまらず、住民自身で具体的な改善行動に移すことがこの地区の課題である。

本研究は、旭硝子財団研究助成「住民主体の住環境改善活動を活性化する支援手法の開発」(研究代表者:三浦昌生)によるものである。

*1 芝浦工業大学大学院修士課程

*2 フジタ自動車工業(当時芝浦工業大学学部生)

*3 フジモリ産業(当時芝浦工業大学学部生)

*4 芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 教授・工博

Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

Fujita Body

Fujimori Sangyo

Prof., Dept. of Architecture and Environment Systems, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.